

## 公務員受験指導の web への掲載について

伊 藤 圭 一

### I はじめに

本学に公務員試験支援センターが開設されて10年を迎えると同時に著者の公務員指導歴も30年を迎えることになった。ここまで指導してきたノウハウをまとめてwebに掲載することにした。その理由は公務員受験指導について多くの人に知ってもらいたいこと、そして知ってもらうことを通して、本学の公務員指導について理解をしてもらうとともに本学を広報する一助になればと考えたからである。そこで、以前から関係のあった出版社であるウイネット株式会社のウェブコンテンツ（Web Content）にウイナレッジに公務員受験指導の記事を連載することにした。本稿は、ウェブコンテンツ（Web Content）を連載するときに必要な知識をまとめるとともに、今回の連載の手法を明らかにすることで「Webがもたらす効果」についての研究の資料のひとつになればという意図でこの文章をまとめ、資料としてこの手法に基づいて記述した文章を掲載した。

### II ウェブコンテンツ（Web Content）の基礎知識

#### 1 ウェブコンテンツ（Web Content）とは何か

そもそもウェブコンテンツ（Web Content）とは、なんだろうか。『サイトの改善と目標達成のためのWeb分析の教科書』（2015）の中で石田知志は、ホームページにおける「内容」「中身」に基準を置く、そして、それらを基準に分析していくことによりWebがわかりやすくなると指摘している<sup>1)</sup>。ウェブ上に掲載されている、文字、文章、画像、動画など、それらが表現している内容すべてのことを指す。つまり、ウェブコンテンツについて要約すると、「Webページに掲載される情報のすべて」ということができる。実際にはホームページにかかわらず、Web上で掲載されている広告も含まれるなど、一般的には、その範囲が広いと言える。

コンテンツが情報の中身を指す一方で、情報を目に見える形で表現する、言わば「外見」の役割を担うページのデザインとは分けるのが一般的である。基準に従い整理をすることでWeb記事は書きやすくなるのでまず、この点を踏まえておきたい。

1) 日本Web協会編著『サイトの改善と目標達成のためのWeb分析の教科書』マイナビ 2015年 p.52

## 2 掲載形式による分類

こうした、基準にそって記事を分類することを試みた。まずは連載の回数、次に内容、で分類をした。そこで連載回数で分けると単発と連載に分けられる。

### 1) 単発形式

1つのテーマやコンセプトについて、情報発信をおこなう。単発で完結することから、時事性の高い内容や特集企画などが単発形式で用いられる。

単発形式のメリットは、Webサイトの知名度向上が期待できる点である。一方でデメリットは、情報が古くなると読まれなくなってしまいう可能性が考えられる。特に時事性の高いテーマの場合は注意が必要である。

### 2) 連載形式

連続して同じテーマやコンセプトの内容を掲載するのが連載形式である。メールマガジンや連載記事、連載コラムなどがこれに当たる。連載形式は、読み手との関係性（エンゲージメント）を高められるというメリットがあり、それはファンを増やすことにつながる。その反面、掲載を継続しておこなわなければならない、中断するとサイト自体のファン離れを引き起こしかねないというデメリットが考えられる。

## 3 内容に関する形式

内容に関する形式についての分類は以下のものが挙げられる。

### 1) 追記形式

単発形式や連載形式で過去に公開されたWebコンテンツに対して、新しい情報や誤った情報の訂正を付け加えるのが、追記形式である。「リライト」とも呼ばれ、例えば単発形式で掲載した情報が古くなった

場合に追記を入れるなど、利便性の高い形式である。メリットは、内容の不足を補い、よりコンテンツを充実させることが可能な点である。一方でデメリットは、追記の対象となる既存記事がなければ成り立たない形式のため、あらかじめコンテンツがある程度必要になることが考えられる。

### 2) 時事形式

ユーザーの関心を集めやすいと考えられるのは、イベントや時節に合わせた時事形式である。入学式・卒業式などの行事や、ハロウィン・クリスマスや毎年のイベントなど、一定の時期が近づいてくれば注目を集めやすいというメリットがある。一方でデメリットは、対象の季節やタイミングが過ぎると閲覧されにくくなることが考えられる。

### 3) マニュアル形式

マニュアル形式とは、掲載している内容が長期的に活用される教科書のような内容である。例えば機器の操作方法など、季節を問わず必要とされる内容のため、継続して読まれるメリットがある。しかし、特徴の説明だけでなく具体的な手順が書かれている必要がある。

### 4) 辞書形式

言葉の意味の解説など、辞書のように網羅的にさまざまな内容を掲載する方法が、辞書形式である。テーマを絞り込んで解説することで、読み手の興味を引きやすく、閲覧件数を増やすことが期待できる。その反面、ノウハウとして掲載する場合には専門性を高く、かつ読みやすくする必要が出てくる。場合によっては監修が必要になることが考えられる。

### 5) レビューやインタビュー形式

ある分野の第一線で活躍する人の発言、利

用者の声（体験談なども含む）を掲載するのがインタビュー形式である。通販サイトのカスタマーレビューや、CSRコーナーのイベントレポートなどもインタビュー形式のコンテンツとなる。インタビュー形式では、インタビューの影響力の高さが鍵となり、ネームバリューの大きさやコンセプトとのマッチ度によりコンテンツの人気度に変化すると考えられている。メリットとしては、競合と差別化しやすく、ネームバリューがある人を対象とすることで自然と閲覧者数を集められることが予想できる。しかし、その反面、ネームバリューがなければ閲覧数の伸び悩みが起きるといったデメリットも考えられる。

#### 6) データ形式

何かの調査結果や統計的な数字をグラフなどで表示するのが、データ形式である。表やグラフを使うことで、読み手にとってよりわかりやすくなるなど、読みやすさに大きな影響を与える。データ形式を使うことで内容を伝えやすくなり、認識の齟齬が起きにくくなるメリットを持っている。

一方で、複雑な表を掲載してしまうと、ユーザーの読み飛ばしや離脱が考えられる。

以上、いろいろな形式がある雑誌に例えて考えるなら、雑誌では連載コラムがたくさん掲載されていて、どんな執筆陣をそろえるかで媒体特性を打ち出している。週刊誌などでは「あの人が連載しているから毎週買っている」という読者も多い<sup>2)</sup>。Webの場合でも同じことが考えられる。たとえ無名人の執筆であっても、一度読んだ人がおもしろいと思えばリピーターとなり、

次第に積み上がっていくことが考えられる。

連載型コンテンツは1回目と2回目が連続した内容を持っているので、次回への関心につながりやすいという点が挙げられる。さらに3回目も読みたいとなればリピーター化していくと考えられる。連載頻度も月1回連載していた記事の更新を月2回に増やせれば、リピーターも月2回訪れることが考えられる。こうしたことができれば、月間訪問者数をかなり積み上げることができる。

#### 4 執筆する前にまとめておく必要のある事

「内容」を考える際にまず、書く前にまとめておくことが必要になる点は次のようなものと考えられる。

##### 1) ターゲットは誰か

「ターゲットは誰か」を考えて記事を書くことで読み手にアプローチしやすくなりわかりやすい文章を書くこともできるようになる。

##### 2) テーマは何か

ターゲットに応じて、テーマを分けて連載企画を立てたほうが「自分のために役立つ文章」というイメージを与えて<sup>3)</sup>、より読み手の満足度が高まると考えられる。

##### 3) 1回の分量

読みやすい量にすることが大切である。1～2スクロールぐらいが目安とである。1回が短く、すぐ読み終わって、次のページに移動しやすいくらいの量にしたほうが、作りやすく、読み手も読みやすくなる。

その他、全体の連載回数や月1回や連載開始時には見えていなかった事情にも対応

2) 田村修 『いちばんやさしいデジタルマーケティングの教本』インプレス 2021年 p.97

3) 同書 p.19

が必要になる。

4) 連載ならあらかじめストック記事を準備  
1 回目の連載内容には、2 回目の出だしが含まれている。これは連載ならではの「次回予告」につながる。例えば、1 回目の記事末に「さあ、今回はこの写真の着こなしスタイルを紹介します。どこがポイントかわかりますか？ 乞うご期待！」といった形で記載し、次回への興味を持たせる。これを実現するためには、連載は次の回もできている状態で進めなければならない。可能な限り3 回分のストックを作ってから掲載開始するとよい。これなら繁忙期があっても余裕を持って進められ、次回への興味をあおる、ということもしやすくなる。連載企画の効果を実感できるようになるまでには一定の時間がかかる。通常、3～4 か月ほど、連載を積み重ねてようやく「リピーターがついてきた」「検索集客力が上がってきた」といった結果が出てくる。

## 5 執筆する際の注意点

実際に書いていく際に気を付ける点を挙げていく。

流れとしては

- ・タイトルを付ける
- ・構成を作る
- ・リード文を書く
- ・本文を書く
- ・推敲する

である。

### 1) タイトルを付ける

まず、記事全体で何を書くかの軸をぶらさないために、タイトルを決める。タイトルは検索する側が最初に目にする情報であ

る。魅力的なタイトルを付けられれば読むだけで記事の内容を理解でき、よりクリックされやすくなる。タイトルはWeb記事で成果を出すためにも重要な要素になる。タイトルの付け方や決め方で注意すべき点を知る必要がある。タイトルを決める際に大切なのが、読み手の興味関心を引く魅力的なタイトルにすることである。検索結果で表示される多くの記事のなかで、読み手に「読みたいな」と思わせなければならない。基本的なタイトルの付け方として、必ず検索キーワードをタイトルに入れるようにすることが大切である。また、検索キーワードの他にもユーザーが知りたいと思うキーワードも入れておくと、内容が伝わりやすくクリックされる可能性も高まることが期待できる。

魅力的なタイトルを付けるためには、読み手の悩みや興味関心は何なのかを理解しておく必要がある。読み手の興味関心が高い内容を読み解き、タイトルに入れることができるのと効果が高いと考えられる。また、タイトルが表示される文字数は決まっているため、長すぎると最後まで読まず、内容を伝えきれなくなる。スマートフォンでは43字、パソコンでは35字程度が表示されるため、タイトルは30～35字程度でおさめるのが望ましい<sup>4)</sup>。

### 2) 構成を作る

記事の構成は、タイトルをクリックした読み手に対して内容を過不足なく伝えるために必要になる。構成がないままライティングすると、内容の方向性が定まらずに伝えるべき情報が届きにくくなる。構成を作る際は、タイトルとユーザーの知りたい情報

4) ジェームス・E.ヘリング『インターネット活用法』日本図書館協会 2016年 p.53

に沿った構成を作ることが重要になる。構成は、「大見出し」・「中見出し」・「小見出し」で組み立てられる。

構成の各見出しは、タイトルと同様にユーザーの興味を引くようにすると効果的である。最初のタイトルが良くて読まれても、目次を見たときに「欲しい情報がなさそう」「読んでも悩みを解決してくれなさそう」と思われれば途中で読むでなくなる可能性が高まる。そういう点からも読み手の抱えている悩みや課題に対して、答えるような見出しタイトルを考えて構成を作ることが望まれている。成果の出る構成を作る際は、検索上位の競合記事を参考にすることも必要である。現在上位表示されている記事は必ず調査分析をし、検索結果1位や2位の記事はGoogleがユーザーにとって良いと判断した記事のため、現状の正解と考えられる。そのため、なぜ上位表示されているのかをしっかりと考えることが重要である。特に1ページ目の記事はすべて確認することは必要がある。

構成の順序の基本は「読み手が強く気になっていることを先に伝える」ということである。顕在ニーズがはっきり見えている場合は、まずそこから伝えていくと記事に留まって読むでもらえる可能性が高まると考えられる。

### 3) リード文を書く

リード文は本文を書く前に、記事の概要や結論を紹介する部分を指す。読み手はリード文の良し悪しで本文を読むか離脱するかを決めるため、重要な要素になる。リード文で「この記事なら悩みや課題を改善できそう」と感じてもらう必要がある。そのためにも、リード文は簡潔に記事全体の内容をまとめることが重要である。記事

全体の内容や結論を書くことで、読み手に続きを気にさせるのがリード文の役割である。また、リード文で読み手の悩みについて共感した内容を書けば「同じ気持ちの人が書いているなら読んでみよう」と思われ、読み手も読みやすくなることが想像できる。さらに、悩みの原因や解決策として、ユーザーの知らない情報を入れ込むことで、続きを気にさせて本文へ誘導することも可能になる。リード文が書きにくい場合は、次のテンプレートに当てはめて書いてみるのも一つの方法になる。

共感を示す

「～とっていませんか?」「～だと大変ですよ」

転換する

「でも実は～なんです」

例えば

「実際に～だったんです」「〇〇の調査だと～」

結論

「そこで本記事では～について解説します」

共感部分は当たり前のことを書くのではなく本質的な悩みについて共感するのがポイントになる。

転換でユーザーの知らなかった事実を述べることで興味を引き、事例や体験談で納得してもらおう方法もある。最後に記事の内容を明示して結論とすれば、簡潔かつ興味を持ってもらえるリード文になっていくと考えられる。

### 4) 本文を書く

本文は、ユーザーの悩みや課題を解決するために必要な情報を分かりやすく伝える役割がある。本文を書くためには、競合記事や公式サイト・論文など、さまざまなど

ころからリサーチする必要がある。ただし、リサーチした情報をただ羅列するだけだと、読み手の期待に応えることができない。悩みが解決する正確な情報を、より読みやすく伝わりやすく書くために、おさえておくべき書き方の方法にPREP法がある。

本文の書き方

本文を書く際にPREP法を使うと文章がわかりやすくなる。

P (Point) : まず結論を伝える

R (Reason) : 結論の理由や根拠を伝える

E (Example) : 事例を交えて分かりやすく解説する

P (Point) : 理由や事例を踏まえて再度結論を伝える

PREP法は情報を論理立てて伝えるための手法のため、ユーザーにも分かりやすく読みやすい文章を書けるようになる。まずは、PREP法にしっかり当てはめながら書いてみるのがよいと言える。

そして、出来れば、表、箇条書き、図解などを加えると良いと言える。文章だけの記事では、どうしても文字だけが目に入り読むのが億劫になる。そこで表や図解を入れて視覚的に見やすくすれば、読み手も最後まで読んでくれる。

5) 推敲する

推敲は書いた記事を見直して、文章をより良くするために確認・修正する必要がある。記事を書いてすぐ入稿するのではなく、必ず文章を見直して記事の品質をより良くする役割がある。Webライティング直後は文章を主観的に見てしまうため、1日以上空けてから推敲するのが良いだろう。1日以上置いてから推敲すると客観的に文章を見られるので、誤字脱字や不自然な文章表現を見つけやすくなり、より良い文章に修

正できる。Webライティング初心者は自分の文章と向き合うという意味でも、まず推敲をしっかりと行うのがおすすめである。

もしも、うまく書けない場合にチェックする点としては次の通りである。

- ・読み手の情報が足りているか
- ・記事のゴールが決まっているか
- ・競合記事を見ているか
- ・読み手の情報が足りているか

Web記事は、ユーザーの悩みや課題を解決するのが目的にあるため、読み手の情報が不明確なままだと、そもそも何を書けばいいのかが分からなくなる。例えば、公務員受験の情報を書く場合、それが指導者向けなのか受験生向けなのかで内容が大きく異なってくる。誰に向けて書くのか、読んでくれるのはどのような人か、どのような悩みを抱えて訪問するのかなどを考える。具体的には、次のような内容を考えながら書き進めることが望ましい。

5) -1 読み手がどのような人なのか、どのような悩みや課題を持っているのか

どのような情報があれば悩みや課題は解決できるのか、どのような状況なのか、他に疑問に思うことは何か、リサーチにおいてもっとも重要なのは、読み手についての理解を深めることである。

5) -2 記事のゴールが決まっているか

Webライティングで伝える記事のゴールが明確になっていないと、どこまで書いていいのかが分からず冗長的な文章になる。記事で解決すべき内容は何か、どこまでの内容を書けばいいのかを決めておく必要がある。そのために、次の内容について考えながらリサーチして情報をまとめる必要がある。その記事を読んでくれる人が最終的にどうなるといいのかを考えることが重要である。

読み手のゴールのためにどのような記事にならないといけないのか、そのために何を指して記事を書けばいいのか、読み手のニーズをより解決できるような網羅性は大切である。

#### 5) - 3 競合記事を見ているか

検索キーワードで上位に表示される競合記事をリサーチせずにWebライティングを行っても、良い結果はなかなか出にくいのが現状である。

ユーザーとGoogleによって良いと判断された記事が上位に来るため、1位や2位などの上位表示記事は、Webライティングにおいて現状の正解と考えるべきである。そのため、次のような内容を意識しながら、検索結果で1ページ目に表示されている競合記事だけでもしっかりとリサーチする必要がある<sup>5)</sup>。

それは、検索結果ですでに上位表示されている記事はどのような記事か、なぜ上位表示されているのか、ユーザーはどのような悩みや課題が解決できるのか、どのような内容が書かれているのか、競合記事には必ず共通点がある。共通点をおさえつつ、独自の情報や自分でしか出せない検証結果などを記載すれば、競合との差別化にもなり上位表示されやすくなる。

#### 6) うまく書くコツ

言い換えるとWeb記事をうまく書くコツは、次の3つということもできる。

- ・ユーザーを明確にイメージする
- ・競合記事を調査する
- ・読者が離脱する意識を持つことを知る

#### 6) - 1 ユーザーを明確にイメージする

ユーザーを明確にイメージして、知りた

い情報が何かによって文章の構成を考える。

#### 6) - 2 競合記事を調査する

ライバルとなる記事を分析する。他の競合記事を参考にすることで自分のポジションを明らかにできることを目標にする。そのことを通じて、より読者に選んでもらえるコンテンツになる。

#### 6) - 3 読者が離脱する意識を持つ

Webの読み手は簡単に記事から離脱する。情報が溢れている中、読み手は常に「このまま、この記事を読むことに時間を使っていいのだろうか」と考えながら、記事を読んでいる。そして読者は違和感を覚えると、ほかの記事を探し始める。そうならないようにストレスのない構成・文章にすることは重要になる。さらに、読者は記事を一言一句くまなく読むことをしない場合が多い。飛ばし読みをしながら、自分の気になる見出しや画像で画面を止め、その周囲をじっくり読む。そのため、本文をじっくり読まないで内容がわからないという状況は避けるべきである。読まなくても見るだけで何が書いているかわかるように、見出しの文言を工夫したり、画像を積極的に活用したりする工夫が必要になる。読者が「読むべき箇所」と「飛ばす箇所」を瞬時に判断でき、安心して飛ばし読みできる記事が理想と言える。

### III 連載によって得られたこと

こうした基本的な知識は、連載をしながら担当の方とも相談をしていくうちに身に付けることができた。30年に渡る受験指導をまとめるため、つい、多くを書き過ぎてしまい、短い文章にすることには苦労も

あった。また、伝えたいことを伝えられているかという不安もあった。その結果、全国からアクセスをいただいている、時事問題を取り上げた記事の回は検索ランキング3位になるほど皆様に注目を集めることができた。数にすると1か月に1,000件程度のアクセス数である。他分野と比較すると少ないかもしれないが、考え方を変わると、公務員受験の先生方1,000人にお話することと例えることができる。そう考えると、大変に効率よいアプローチの方法である。地元の先生方からも好評をいただき、感想をいただいている。また、web教育の教材として本記事の文章を学生に紹介している学校もある。このことを通じて、そもそも教員向けに書いた記事であるが、指導される側の学生が読んで理解できる内容になっていることに気づかされた。

役に立てる文章をwebに掲載することで、多くの人の目に触れることができ、本学の広報活動にもつながると確信することができた。

最後に連載記事を掲載するので参考にさせていただけると幸いである。

#### 【参考文献】

- ・山田案稜『WEBマーケティング111の技』，技術評論社，2012
- ・日本Web協会編著『サイトの改善と目標達成のためのWeb分析の教科書』，マイナビ，2015
- ・ジェームス・E. ヘリング『インターネット活用法』，日本図書館協会，2016
- ・田村修『いちばんやさしいデジタルマーケティングの教本』，インプレス，2021

## 【参考資料】

「公務員受験指導のwebへの掲載について」で分析をもとに作成した文章である。

検索ランキング3位という実績を獲得した文章である。本文を読んだ後、分析がどう生かされているか確認のための参考資料である。

掲載日 2023年7月3日掲載（ウイナレッジ）

掲載先アドレス

<https://weknowledge.jp/series/koumuingoukaku>

記事タイトル

公務員試験時事問題対策法！

時事問題対策はすべての公務員試験対策の見直しにつながります

- 1 受験生も教員も、なぜ、時事問題が大事なのかを見つめなおすこと
- 2 どうやって勉強するか
- 3 自分で予想問題を作ってみる

### 1 受験生も教員も、なぜ、時事問題が大事なのかを見つめなおすこと

公務員試験の筆記試験で対策方法が一つだけ異なるのが「時事」の分野です。そのほかの分野は過去問題をベースに演習を重ねればよいですが、時事問題は毎年、範囲が異なります。したがって、過去問題の演習というタイプでは対応が難しいです。ですから、「どうやって取り組ませたらいいのだろう」とお悩みの方も多と思います。

時事が重要な理由は、次の3つあります。

- ① 筆記試験（教養）での出題数が多めである
- ② 社会科学の分野に絡んだ出題がある
- ③ 二次試験以降の論文・面接にも必要な知識である
- ④ 1番目の出題数については

試験区分	時事出題数	教養問題出題数
国家総合職	3	40
国家一般職	3	40
国家専門職	3	40
地方上級	3～4	50
都IB	5	40
特別区	4	40
市役所	0～4	40

総出題数の1割程度を占めています。無視することのできない出題数で、これだけでも時事問題の重要性は理解いただけると思います。

- ② 2番目の「絡んでいる」という点が重要です。単に「時事」を対策しようとしても、そこには社会科学の基礎知識が必要となります。社会にある事柄・問題点を把握し、理解・

判断等をしていく力が必要となるため、欠かせない科目となります。

例えば公表されている京都府二類等試験の択一式問題（令和3年度）の時事問題を例に説明をいたします。

（例題）

新型コロナウイルスへの国や自治体の対応について正しい記述を1から5から選んで答えなさい。

1. 改正予防接種法によりワクチン接種の健康被害が出ても製薬会社に請求された損害賠償を国が肩代わりできるようになった。
2. 日本はワクチン供給不足を受けて、世界保健機構（WHO）などが主導する新型コロナワクチン供給の世界的な枠組み（COVAXファシリティー）への参加を見送った。
3. 国民に一律10万円を支給した特別定額給付金（2020年）の財源はすべて消費税の増税分で賄われている。
4. 新型コロナ対策の最前線を担う保健所は厚生労働省が全国に設置している。
5. 新型コロナウイルス拡大の影響で政府は景気拡大期について、完全に終了したと正式に認定を行った。

正答 1

例題は新型コロナウイルスについて出題されています。達成目標の年や目標などが挙げられていて新型コロナウイルスについて学習すれば3から5について判断できます。しかし、2については「世界保健機関（WHO）」という組織についての知識も必要になります。国連の機関については基本的に社会科学の政治分野で学習します。時事問題はこのような時事のみでなく社会科学の基礎知識が必要になるのです。つまり時事問題が出来ないのではなくて社会科学の基礎が身につけていない、理解できていないとも言えるのです。言い換えると時事問題は社会科学の基礎を押さえているかどうかの目安にもなります。

③ 3番目の論文、面接対策についてもつながりがあります。

以下は論作文の出題例です。

- ・最も関心のある社会的な問題  
（大阪府）
- ・迷惑行為の増加原因とその対策  
（京都府）
- ・携帯電話のマナー（芦屋市）
- ・少子高齢化について（門真市）
- ・市民が求める行政サービスとは  
（綾部市）
- ・交通事故を減らすためのアイデア  
（福岡県警）

時事系の論作文の出題も多いです。いくら作文を書く力があってもテーマについての知識

が無ければ書くことができません。これは面接でも言えることです。「最近気になるニュース」という質問は必ずと言って聞かれる質問ですが、ただ、ニュースの題名だけを答えるだけにはいきません。そのニュースに対する知識と自分の考えが必要になります。そのためにも時事問題への取り組みは重要になります。

公務員試験の教養分野は6割の正解率で合格すると言われています。指導する側も受験生も、面倒なこと、一見公立の悪い分野は、無意識のうちに後回しにしがちです。ただ、時事問題の重要性を理解すれば後回しにはできないはずです。指導する側は、自分もそして受験生にも重要性を理解することが重要です。そこから「やる気」が出てきます。

## 2 どうやって勉強するか

まずは、過去問題を見てください。公開されているもの、問題集に掲載されているものを解いてみてください。気が付くことがあるはずです。ここでは類題を使って説明をいたします。

（類題）

（例）政治分野における男女共同参画推進法（2018年）や女性の政治参画について正しい記述を1から5から選びなさい。

1. この法律はフランスで導入されている法律と同じように政党に男女同数の候補者擁立を義務付けている。
2. この法律を受けて、女性議員の割合は国政では世界で1、2位を争うほど増えている一方で、東京都特別区議会などの地方議会では低迷している。
3. 政府の第5次男女共同参画基本計画（2020年）は候補者の一定割合に割り当てるクォータ制について各政党には自主的な導入を要求すると明記された。
4. 女性の衆議院議員が初めて誕生したのは、日本国憲法が施行された後のことである。
5. 選挙の候補者を男女同数にしない政党には罰金が科せられることが法律で決まっている。

正答3

・わかること その1

まず、知らないと解けません。すべてを知ることは不可能です。

=適切なテーマを学習することが大切です。

毎日のニュースを単に追っていくよりも、ある程度のテーマに絞って学習すべきです。

話題となった法改正や立法について

選挙や外交問題について

国際会議や国際情勢について

話題になった厚生労働について

地方創生について

### 各種社会問題について

上記の出題ですと、「選挙」について学んでいた人は得点ができたはずですが、この問題の場合は選挙のみに当たらず、2018年に成立した比較的新しい法律である「政治における男女共同参画推進法」に基づいて行われた政策について問うています。成立したときのみ、時事問題に登場するのではないということもわかります。既にある制度の「法改正」のみではなく、新しい法律に基づいた政策についてもその動向に注目すべきでしょう。また、各種社会問題は、具体的に頻出なテーマが決まっています。人口動態に関する問題（出生率・高齢者人口の割合など）、ICTに関する問題、地球環境です。したがって、①人口問題 ②ICT（情報通信技術） ③地球環境問題 ④選挙 この4つの分野は2023年度にも出題される可能性は高いです。

#### ・わかること その2

案外と社会科学の基礎知識を説明するときに解説が可能である

=基礎的な学習をする際に、その分野の話題に触れておくことが大事

平等については、基本的人権について学ぶ際に説明を行います。同数にすることがすなわち平等に直結するわけでは無いことなどを、その際に説明をしておけばこの問題を解くときに助けになることは確かです。現状、政治の分野への女性の進出は進捗しておらず、批判的であったクオータ制という議席の一定の割合を女性に充てる制度の導入を推進するような流れになっている点については、授業で触れておかないと受験生には、理解しにくい内容になっているとも言えます。

指導するみなさんはもう一度、時事のテーマが、社会科学の基礎とむずびつかないか、という視点から過去問題を見直してみてください。

これから、指導者の皆さんは受験生の最後の仕上げの時期に入ると思います。その際に、社会科学で学んだ制度をおさらいする筈です。制度の改正が無かったか、制度に関する法律が改正されていなかったかまで、見直しをすると自然に時事の対策になっている筈です。試してみてください。

#### ・わかること その3

社会科学を見直ししながら、法改正など近年の話題を調べることが重要

=時事問題の学習には解説の多い、索引のあるテキストを用意すると良いです

テーマはある程度絞られます。予想問題を解くことも重要ですが、時事の分野と社会科学の問題はかなりつながりがあります。②でお話したように、社会科学の見直しと復習を兼ねて行うと効果的です。つまり、調べながら行うことが増えますのでぜひ、問題集は索引のあるものを選び、受験生自身も調べられるようにしておくことが必要になってきます。調べたところはチェックを付けておき、直前の見直しの際には、もう一度、見直ししておくことが重要であると言えるでしょう。

### 3 自分で予想問題を作ってみることも大切です

自分で予想問題を作ってみることも大事です。

指導する先生方は、時事問題以外の問題について作問をする経験はあると思います。それと同じように時事問題も予想して見てください。身近な人の予想問題は受験生の興味を学びに向けることができます。興味を持たせる意味ではとても重要なことであると思います。

私もそういう意味で、3つ挙げてみます。「え、違うんじゃない？」と思われた方はぜひ、ご自分でも予想をしてみてください！

・2022年、国連の推計によると、世界の人口は80億人を突破

人口増加の原因として衛生環境や医療技術の向上により平均寿命が延び、乳幼児期に死亡することが減少したことが挙げられます。押さえておきたい点としてはこうした国々が低中所得の国が中心であることです。そうした貧しい国々に人口が増えるということは食糧不足や経済格差が拡大する恐れがあります。2022年の国別人口ランキングは1位が中国（約14億4千万人）、2位がインド（約13億8千万人）、3位が米国（約3億3千万人）とされていますが、2023年にはインドが中国を人口において上回ると予測されています。

人口減少が問題になっている日本もまだ、日本は約1億2千6百万人で、11位となっている事実も押さえておく必要があると思います。

・2023年4月1日より、すべての年齢層で自転車に乗る際のヘルメット着用が努力義務へ

最近自転車専用の道路を見ることも多くなりましたが、交通ルールは生活に身近なものですので、警察官希望の対策の場合はもちろんですが、行政職員や土木職員の方も仕事で関わることが多いので出題もしくは面接で問われることは十分に考えられます。法改正で最も身近な例と言えるでしょう。

・2023（令和5）年3月27日から文化庁が京都に拠点を移し業務を開始

中央省庁の地方移転は東京一極集中の是正、地方創生の一環として計画されました。これまでも消費者庁など一部機能の移転はありましたが、本格的な移転はこれが初めてとなります。文化庁の京都移転は2016年に決定されたもので、ようやく実現した形になります。当時の出来事を時事問題として覚えている方も多いのではないのでしょうか。そして全ての機能が移転したわけではなく、全体の3割程度の職員は今後も東京での勤務になる予定である点も出題しやすい時事的な話題とすることができます。

最後に

時事対策は悩みの種と感じる皆さんは要注意です。

公務員試験対策が単なる過去問演習に陥っている可能性があります。

もう一度、受験指導を見直して頂くのも良いのではないのでしょうか？